

# パラサイト庁舎

## - 商店街に寄生する庁舎建築 -



庁舎通りでは、職員と市民の活動が入り交じる。

庁舎と店舗は庁舎通りを介して繋がれ職員も利用する。

庁舎通りと執務空間は段差で分かれ、空間の質を担保。

段々の庁舎通りは視線を奥へ導き、日常風景に庁舎が溶け込む。

店舗と庁舎は繋がれ、店舗に庁舎利用者が流れ込む。

庁舎通りは、従来の庁舎の待合・ロビー空間ともなる。

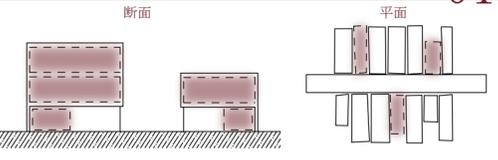
近頃議論の不透明性から市民との摩擦が生じている。その一因には、経済性・合理性を優先し、まちに閉じた“ハコモノ”庁舎の存在がある。本提案は、庁舎を衰退する商店街に寄生させることで、商業空間と行政空間をシームレスに接続する「パラサイト庁舎」を構想する。商店街を再生しながら、市民に開かれた親和性の高い庁舎を実現する。

### 不透明性を助長する庁舎 Background 00



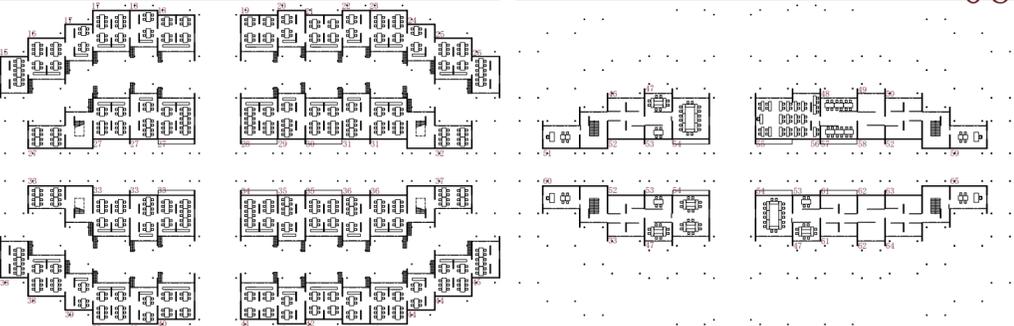
近頃議論を呼ぶ市民という行政との摩擦。その根拠には行政活動が市民に届くという透明性の問題がある。この不透明性には、経済性を追い求め巨大なハコモノと化し、市民やまちに対して各課が閉じられた現在の庁舎建築も起因している。

### 空白化した商店街建築 Background 01

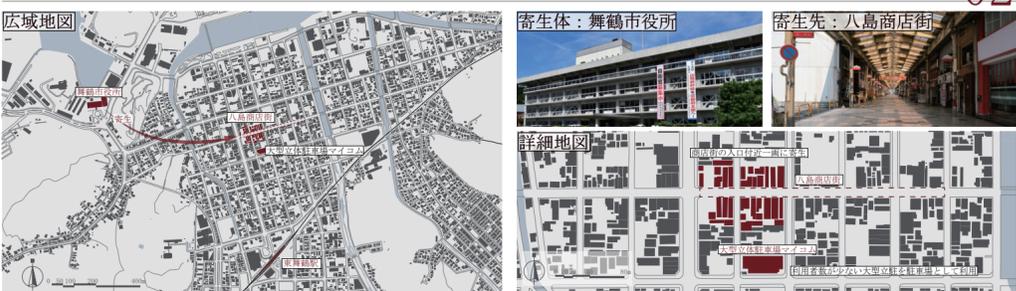


時代の変化により機能の失い、成功モデルは確立された商店街。再生の取組みが進むものの、成功モデルは確立されず。また、住商一体からテナント化への移行により、店舗奥や2・3Fが未利用となり、通りには空白のハコモノが並んでいる。

### 各階平面図 Planning 06

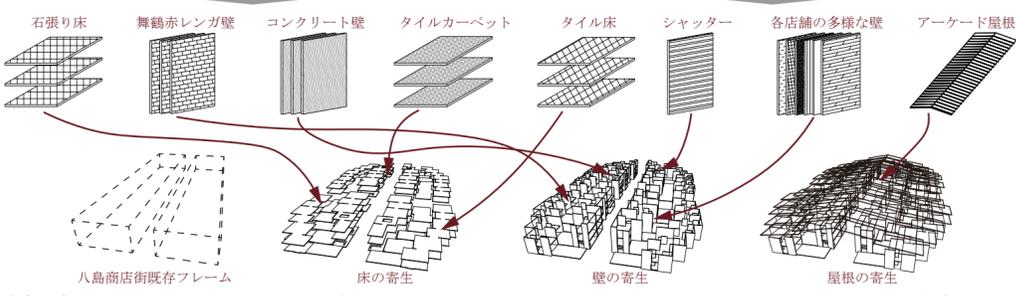
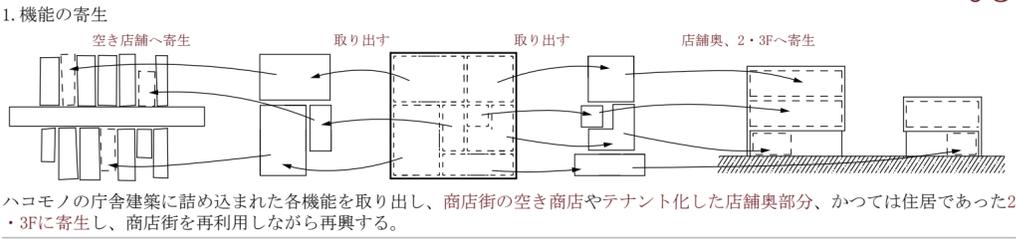


### 寄生体としての庁舎、寄生先としての商店街 Proposal 02



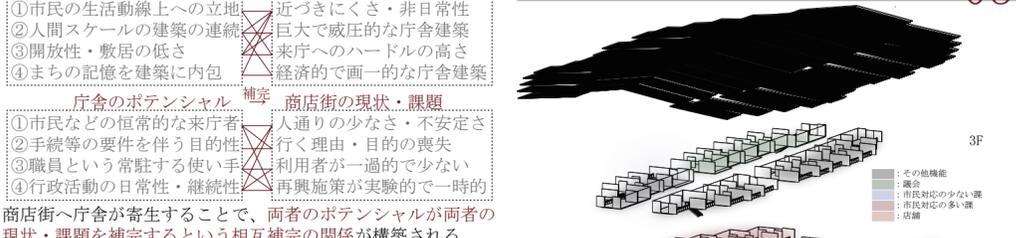
対象地は京都府北部にある人口8万人の都市である舞鶴市。今年で築63年を迎えた舞鶴市役所を寄生体、中心地に位置するがシャッター街となっている八島商店街を寄生先とし、舞鶴市役所が八島商店街へ寄生する。このように庁舎が商店街へ寄生することで商店街を再利用・再興し、まちや市民に親和性のある庁舎建築を実現する。

### 2つの寄生手法で創られるパラサイト庁舎 Diagram 03

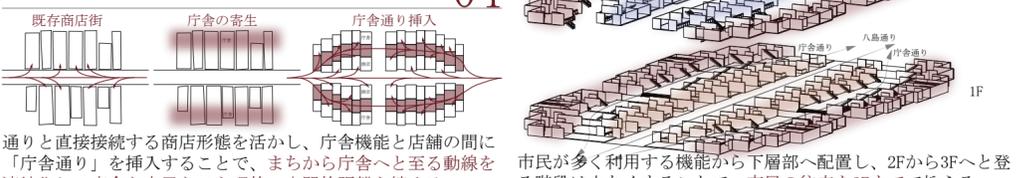


庁舎と商店街のハコモノを床・壁・屋根に解体し、材質やエレメントはそのまましながら床→壁→屋根の順に既存商店街のフレームとハコモノを繋ぎ、寄生してできた床・壁・屋根の集合体は庁舎と商店街の記憶を継承する装置として働きながらパラサイト庁舎を形成する。

### 寄生による相互補完

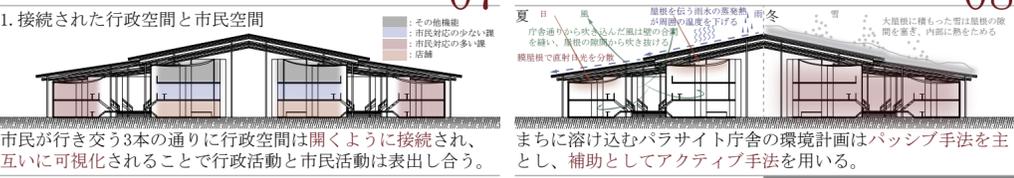


### まちに溶け込む庁舎通り Street 04



通りと直接接続する商店街を活かし、庁舎機能と店舗の間に「庁舎通り」を挿入することで、まちから庁舎へと至る動線を連続化し、庁舎と市民との心理的・空間的距離を縮める。

### 表出し合う行政と市民 Detail 07



市民が行き交う3本の通りに行政空間は開くようには接続され、互いに視覚化されることで行政活動と市民活動は表出し合う。

### 2. 交錯する職員動線と市民動線



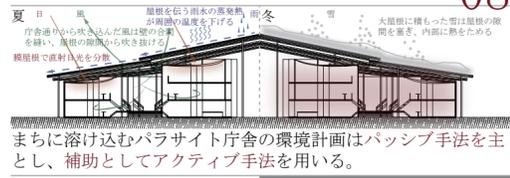
業務や店舗利用の為に職員が3本の通りに降りてくることで職員動線と市民動線が交錯し、行政と市民が表出し合う。

### 寄生した床・壁・屋根 Detail 09



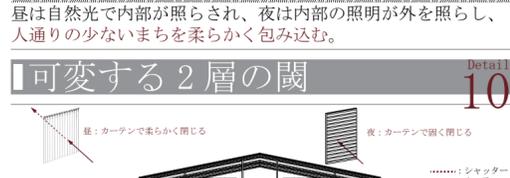
店舖・庁舎をアーケード大屋根で覆い、一つの建物をまとめる。

### 夏・昼夜で変わる様相 Environment 08



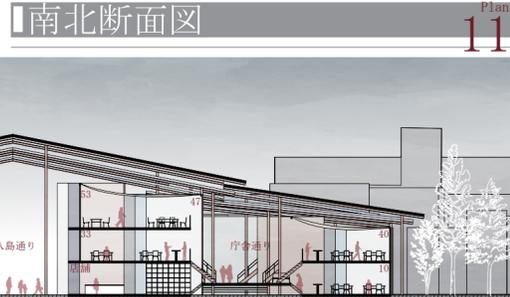
夏は自然光で明るい空間に、冬はカーテンで暖かく閉じる。

### 可変する2層の閾 Detail 10



カーテンとシャッターの2層のレイヤを設け、開閉によって庁舎のプライバシーとセキュリティを操作する。

### 南北断面図 Plan 11



市民が多く利用する機能から下層部へ配置し、2Fから3Fへと登る階段は少なくすることで、市民の往来を2Fまで抑える。